

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2016年 8月 26日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部2
参加プログラム:	HKU研修	派遣先大学:	HKU
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

香港大学はある大学ランキングによってアジア3位になった大学である。香港島北西部に位置し、建物は東大に比べると高い。授業は基本的に英語で行われる。

参加した動機

自分は理科一類の2年であり、本格的に文系的なプログラムに参加できるのはこれが最後だと思い、参加した。また現地の学生と共同でプレゼンテーションの準備をするのもよい経験になると思い、参加に至った。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

国際本部に提出する書類が多いので早めに準備して、漏れがないかしっかり確認しましょう。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

今回取りませんでした

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特になし

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学から勧められた付帯留学を利用

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特になし

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
TOEFL81程度でしたが、現地の学生がほぼ日本語を話せるのもあり、なんとかなりました。ただプレゼンテーションの準備ではもっと英語力が必要と感じました。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
特になし
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
はじめの9日間は主に日本にゆかりのある香港のVIPから様々なお話をうかがった。個人的にはアメリカ日産の香港でのビジネス戦略が印象に残った。また最後にはプレゼンテーションの準備があったがそれもグループワークスキルを身に着けるうえで貴重な経験になった。
②学習・研究面でのアドバイス
とにかくしっかり話を聞きメモをとること
③語学面での苦勞・アドバイス等
とにかくわからなかったら聞き返すこと、最悪HKU生には日本語で説明してもらえる。
生活について
①宿泊先(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
寮、大学から斡旋があった
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
寮でご飯がでないので少し離れたスーパー、コンビニから朝食を調達する必要があった。(キッチンはある)近くに駅があるので足には困らなかった。またクレジットカードを使う際、レシートにサインして支払うことができなかったのでクレカの暗証番号は事前に確認すべき。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
特になし
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空費45,000円、授業料・宿泊費・バスでの移動費用0円、食費・娯楽費(コンサート、カラオケなど)40,000円、交通費5,000円、その他(スーツケースレンタル、空港までの交通費、保険代など)15,000円

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
JASSOより(7万円)プログラム申し込み時に説明あり
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
アジアユースオーケストラの香港文化センターでの鑑賞。また週末にはヴィクトリア・ピークに登り、香港中心部を見下ろしたり、Cause Way Bay のショッピングセンターに行ったりした。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
日本語のしゃべれるTAがつき、語学面でのサポートは十分だった。また寮には洗濯機が適切な価格で使えるので朝食が出ないことを除いてはもんくなした。また寮には洗濯機が適切な価格で使えるので朝食が出ないことを除いてはもんくなした。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
どれをとっても充実していた。施設に関しては大体が東大以上
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
香港について漠然とイギリスチックな中国の都市と認識していたが、そこには独自のアイデンティティ、正直意外なほど強い日本との繋がりがあることを感じられた。またグループワークを行う際、中途半端な理解が妨げになることを学んだ。
②参加後の予定
将来の進路に特に影響はない。ただスタートアップについての講演を聞いた際、大会社に就職した後40歳くらいで新しく事業を始めるのもありだなと思った。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
現地の学生とほぼ常に一緒に、いろいろなお話をきけ、気兼ねなく質問できるのでオススメなプログラム。本気で取り組みればかなり充実したものになるはず。
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
特になし
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2016年8月19日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	香港大学・東京大学合同サマープログラム	派遣先大学:	香港大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
	5. 民間企業(業界:)		6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要
香港大学は、校舎や図書館の環境などが非常に整っていた。寮施設も充実していた。
参加した動機
これまであまり時間もなく留学できていなかったため、その機会を得るためと、香港という都市の重要性を学ぶため。
参加の準備
①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
指示が細くなされるので、とにかく漏れのないようにしっかり従って動くこと。不安な点は些細なことでもしっかり聞きに行く。
②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
特になし
③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)
特になし
④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
日数がかかることがあるので、とにかく早め早めに動くこと。必要書類で埋まらない項目があったとしても、締め切り日にいったん提出することを優先させる。
⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
教養学部の授業としてとったので、教養学部に留学許可書を提出し、分科長とコース長に押印をいただいた。
⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
不安があれば聞く、話すに特化した訓練をしておくべき。相手側の英語力は高い(だろう)

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
除菌シートは重宝した。サンダルやスリッパも持っていくと便利。Wi-Fi関係は気になる人はしっかり下調べをして備えるとよい。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
基本的に、昼過ぎまで様々な分野の第一人者などの方からレクチャーを受けたり、実際に企業見学をしたりなどで行動をグループ全体でとにし、残りの時間や土日などは、最終課題であったプレゼンの準備や下調べ、遊びもした。英語が思いのほか必要で、話せることが重要だと痛感した。
②学習・研究面でのアドバイス
学習面は、英語のスピーキングが何よりも重要だと思う。
③語学面での苦勞・アドバイス等
同上
生活について
①宿泊先(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
大学の寮。かなりきれいだった。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
物価は日本に比べて安い。気候は暑いですが、香港は屋内が非常に冷房を効かせており、その意味で羽織るものは必須。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
特になし
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
2週間で2万円くらい。食費がほとんど。航空費は別途往復で7万くらい
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
JASSO、7万円、案内要綱に記載されていた。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
アジアユースオーケストラの演奏を聴きに行った。また、夜はほぼ毎日香港大生とどこかに食べに行っていた。

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
TAがついており、道中で迷ったときなどに対応してくれた。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
食堂は美味しくなかったが、図書館の自習設備が素晴らしかった。しかも利用証をもらえたことは役だった
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
香港がいかに国際的な金融都市であるかをうかがいしれた。また、言語の壁に阻まれて思う通りにコミュニケーションができずに一時期重苦しい雰囲気になったこともあり、難しさを痛感した。
②参加後の予定
英語の研鑽をしていくと同時に、せっかく会った香港大生との交流を続けていきたい。公務員試験の勉強も始めたい。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
案ずる前に行動せよ
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
特になし
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。
特になし

**The University of Tokyo Study Abroad/Student Exchange Program Report Form
(for programs from a week to 3 months)**

Date: 08/16/2016

Faculty/Graduate School at UTokyo:	College of Arts and Sciences	Year at the time of Study Abroad	B3
Program Attended:	HKU-Todai Joint Summer Program @ Shun Hing College	Host University:	The University of Hong Kong
Occupation after graduation (intended):			
<input type="checkbox"/>	1. Research		
<input type="checkbox"/>	2. Specialist (Medical • Judiciary • Accountant)		
<input type="checkbox"/>	3. Civil Service		
<input type="checkbox"/>	4. NPO		
<input checked="" type="checkbox"/>	5. Private sector (Type of industry: Consultancy)		
<input type="checkbox"/>	6. Entrepreneurship		
<input type="checkbox"/>	7. Others ()		

Outline of the receiving institution overseas
This summer program is a joint collaboration between the University of Hong Kong and the University of Tokyo. It was held at and sponsored partially by Shun Hing college of HKU, and organized based on the main theme of "Japan in Hong Kong" with a focus on food culture.
Reason why you decided to participate
The relations between Hong Kong and Japan is a part, but less-covered part of my major, Japan in East Asia. This program served as a rare and great opportunity for me to learn directly about Japan-Hong Kong relations from people in both governmental organizations and businesses in Hong Kong (related to Japan). The mix of an academic and an experiential learning approach was also one of the attracting aspects of this program.
Preparation for the program
(1) Application process (please give any advice on dealing with the application process)
The application process was slightly unfriendly to international students due to the lack of information clearly displayed on the information sheets. For instance, I experienced much distasteful treatment from the International Students' Section at Komaba over the need for an original signed version of the Oath - and the fact that scanned or faxed copies were not allowed was state nowhere on the information sheet. The staff was also speaking in an unpolite tone, claiming that foreigners are at fault for not being aware of the 'unspoken rules' in Japanese society. All this conflict could have been avoided with just one simple, clear statement inserted in the application form to inform of the need for an original signed copy - one that cannot be easily sent over in the case of international students who do not have the luxury of their parents living in the same country.
(2) Visa application (type of visa, where to apply, processing time, any advice on visa application)
I did not require a visa for this due to my nationality.
(3) Medical check-ups (health check-ups before departure, inoculations, etc.)
N/A

(4) Insurance (information about insurance for travel/studying abroad purchased)
For some reason, despite having submitted the application for insurance on time, the company claimed that it did not receive my details from the university, and this resulted in a very last minute request from the company for me to settle the logistics just two days before departure. Apart from that, all went fine.
(5) Procedures required by your Faculty/Graduate School (any information about course registration, credits, exams, submission of dissertations etc)
No particular problems were faced.
(6) Language preparation (language level before the program, lessons etc.)
No particular preparation as I am proficient in English, Japanese and Chinese - which were all used throughout the program.
(7) Items which should be taken with you from Japan and any other advice on things which should be done before leaving Japan.
Laptop, voltage transformers
Information on the academic/research program
(1) Outline of the program (Style of the lessons/preparation study/review study, thing which left an impression on you, etc.)
A large part of the program involved talks conducted by various professionals, and the academic aspects of it was centered on lectures by four professors and fieldwork conducted as a group. The scope and depth of topics covered, and being privy to some industry tips and motivating success factors were the most impressionable parts of the program.
(2) Advice on aspects of academic/research work
Thinking of a feasible research question for the final presentation at the end of two weeks was challenging due to the limited resources and wide range of interests as a group of five with various academic and cultural backgrounds. Finding a narrow focus and practical empirical approaches, on top of keeping an open mind to possible changes in the research focus would be necessary.
(3) Problems experienced with language issues, advice concerning language, etc.
Some misunderstanding occurred between the HKU and UT students especially during academic discussions, and Q&A sessions were often dominated by people more comfortable in the language in which the talk was carried out; however these are both inevitable and not of too much concern as the overall language barrier was minimal.
Aspects of life
(1) Accommodation (Type (home-stay, room-sharing etc.), cost, atmosphere/appearance of accommodation, how you found it, etc.)
We were fortunate to experience a sponsored stay at Shun Hing College, one of the dormitory blocks at HKU. It was a single room and a very comfortable experience.

(2) Living environment (such as climate, environment around the institution, transport facilities, food, managing your money (overseas money transfer, credit cards))
Most of us who were accustomed to Tokyo's climate found the humidity in Hong Kong difficult to handle at the beginning. Selecting the right food places with the help of our local friends helped us to avoid excessive culture shock and kept our stomach in relatively good condition.
(3) Aspects of risk and safety management (safety of local region, condition of medical facilities, any action taken in maintaining your mental and physical health, etc.)
Hong Kong was generally safe, although there was obviously the need to keep constant watch on our belongings. There was no particular need to enlist the help of medical facilities and personnel during the trip. However, we were told that we had access to HKU's medical facilities at minimal cost, which was a great relief.
(4) Details of expenses (breakdown of costs, such as airfare, program fees, cost of required books, rent, food, travel cost, money spent on entertainment)
Program fees and accomodation: Sponsored by HKU and Shun Hing college; airfare: around 70,000JPY; food, transportation and entertainment: around 60,000JPY
(5) Financial aid (if you were receiving financial aid/scholarships, please give the name of the source of the aid, amount, and how you found it, etc.)
Scholarship provided by Utokyo for this summer program
(6) Activities other than academic/research work (sports, cultural, volunteer/internship, weekend activities, etc.)
N/A
Environment of the receiving institution
(1) Support facilities for students taking part in the program (such as language, academic, living support mechanism and counseling services)
Prof Sonoda and Dr Nakano were extremely helpful in providing clear information and open to questions before and throughout the program.
(2) Facilities (libraries, sports facilities, cafeteria, IT equipment and facilities, etc.)
We had access to almost everything - the library, cafeteria, PC commons etc, and it was a very holistic HKU experience.
Looking back over the program
(1) The significance of the program and how you have developed by taking part in it, any other impression from having studied abroad
First of all, this program deepend my understanding of HK-Japan relations, and inspired me to thinking deeper about what distinguishes my home country (Singapore) from Hong Kong and how this can be capitalized on by both countries in the road towards economic development. Secondly, hearing from business and government leaders about economic development, business expansion and tips on working in an international environment was extremely helpful and motivating in my contemplations of my future career and place as an international individual in Japan. Studying abroad, albeit for a short two weeks, gave me chances to broaden my network and deepend my friendships with both Japanese and Hong Kongers.

(2) Your plans having studied abroad
As I am already an international student in Tokyo, this studying abroad experience further reinforced my belief of the merits in learning to be a citizen of the world - this will definitely help in my future career although I cannot say that I have any concrete plans or desires to work in Hong Kong in the future.
(3) Any messages or advice for future participants
It is most important to keep an open mind and take every study-abroad opportunity as a way to not just gain knowledge about the themes covered in the program, but also to mix with the locals and brush up on language skills. Even though I was already fluent in all the official languages of the program, I made an effort to practice my Cantonese with the locals and felt some improvement after a mere two weeks.
Miscellaneous
(1) Websites or publications which were useful while preparing for or during your time overseas
N/A
(2) Please submit any photographs which may be used on the University of Tokyo websites or publications.
N/A

**The University of Tokyo Study Abroad/Student Exchange Program Report Form
(for programs from a week to 3 months)**

Date: 08/15/2016

Faculty/Graduate School at UTokyo:	Graduate School of Interdisciplinary Information Studies	Year at the time of Study Abroad	M1
Program Attended:	HKU-UT Summer Program	Host University:	University of Hong Kong
Occupation after graduation (intended):			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. Research		
<input type="checkbox"/>	2. Specialist (Medical • Judiciary • Accountant)		
<input checked="" type="checkbox"/>	3. Civil Service		
<input checked="" type="checkbox"/>	4. NPO		
<input type="checkbox"/>	5. Private sector (Type of industry:)		
<input type="checkbox"/>	6. Entrepreneurship		
<input type="checkbox"/>	7. Others ()		

Outline of the receiving institution overseas

The University of Hong Kong (HKU) is the oldest university in Hong Kong. It is also an internationally recognized, research led, comprehensive university. Humanities Study is one of the strong field of HKU.

Reason why you decided to participate

My master thesis is on the journalistic media in Hong Kong. I have been paying attention to political events and social changes in Hong Kong, so I consider this program as a great opportunity to further my understanding on this region.

Preparation for the program

(1) Application process (please give any advice on dealing with the application process)

Follow the instruction on the program webpage. Information about insurance and scholarship should be made clear and do not hesitate to send email to the International Exchange Group.

(2) Visa application (type of visa, where to apply, processing time, any advice on visa application)

It is better start the application process one month before departure from Japan. I applied for a 14-day tourist visa this time in the Chinese Consulate in Roppongi. The application took approximately one week.

(3) Medical check-ups (health check-ups before departure, inoculations, etc.)

I did not do any medical check-up.

(4) Insurance (information about insurance for travel/studying abroad purchased)

I have joined the insurance program and OSSMA recommended by University of Tokyo.

(5) Procedures required by your Faculty/Graduate School (any information about course registration, credits, exams, submission of dissertations etc)
I registered the course at the beginning of the semester.
(6) Language preparation (language level before the program, lessons etc.)
It is better to improve the Japanese skill before departure.
(7) Items which should be taken with you from Japan and any other advice on things which should be done before leaving Japan.
Collect some information on the destination and make a list of spots you would like to visit. By doing this, you can make the best use of spare time with the locals. Make sure you have enough cash in case you fail to withdraw money from ATM.
Information on the academic/research program
(1) Outline of the program (Style of the lessons/preparation study/review study, thing which left an impression on you, etc.)
This is an intensive course combined with professional talks and practical field trips, which compels us to understand Japanese cultural influence in Hong Kong from daily life. The guest speakers are professionals from all walks of society who know the inklings of their business. They were not giving very academic speeches but instead giving out introductory information or overall outline, which is less challenging to accept for students from various academic backgrounds. There are a moderate amount of readings, including academic research paper and information of the guest speakers, as assignment in this program. They are useful reading materials which should be read beforehand, for students should know enough about the topic and the speaker so that they can ask proper questions after the speech.
(2) Advice on aspects of academic/research work
There are a lot of chances of meeting professionals and social elites in this program. Students should seize the opportunities of interacting and communicating with them. Students also can conduct personal interviews with them, which can help develop thesis or other research.
(3) Problems experienced with language issues, advice concerning language, etc.
Some talks are conducted in Japanese which is a bit challenging for me to follow. I think it is very important to sharpen the language skill before the program starts. Students can select some audio or video material to practice and get familiar with the foreign language for at least one month before departure.
Aspects of life
(1) Accommodation (Type (home-stay, room-sharing etc.), cost, atmosphere/appearance of accommodation, how you found it, etc.)
I am very satisfied with the dormitory we stayed in. We are lucky enough to stay in Shun Hing College. Some of us enjoyed single rooms while others shared rooms with other students from the same program. The rooms are neat and tidy, Mattress, pillow and comforter are offered. Every floor is equipped with kitchen, shower rooms and toilets. Students have to bring washing tools like towel, bath gel, shampoo and tooth brush etc. Most importantly, they should bring slippers for shower as well.

(2) Living environment (such as climate, environment around the institution, transport facilities, food, managing your money (overseas money transfer, credit cards))
Hong Kong is famous for its humidity. During summer and autumn, storms and typhoons happen frequently. Umbrella should be taken with you all the time. Shun Hing College is located near metro station, but since it is also on the hill, students have to walk up a slope. It is better to reduce the weight of your luggage. There are supermarkets and restaurants near the station. Life is very convenient. If you forget to bring something daily appliance, you basically can find the basic stuff in shops or supermarkets there. However, please remember to prepare the adaptors which are more difficult to find.
(3) Aspects of risk and safety management (safety of local region, condition of medical facilities, any action taken in maintaining your mental and physical health, etc.)
Keep in touch with your group leaders and the coordinators of your university. The watchkeepers of the dormitory in Shun Hing College are on duty 24 hours. If you got into some emergency, please let them know.
(4) Details of expenses (breakdown of costs, such as airfare, program fees, cost of required books, rent, food, travel cost, money spent on entertainment)
Flight tickets (round trip): 40,000yen; Travel cost in Hong Kong: 5000yen; Cost of Meals: 14000yen; Cost of entertainment: 6000yen.
(5) Financial aid (if you were receiving financial aid/scholarships, please give the name of the source of the aid, amount, and how you found it, etc.)
70,000yen financial aid from University of Tokyo after the program.
(6) Activities other than academic/research work (sports, cultural, volunteer/internship, weekend activities, etc.)
We hang out and tried out street food in some lower-class district in Kowloon. The street view is very different from the one in Hong Kong Island. We also went to Japanese Karaoke box to experience how Japanese spend their spare time in Hong Kong.
Environment of the receiving institution
(1) Support facilities for students taking part in the program (such as language, academic, living support mechanism and counseling services)
Students from Hong Kong university have good Japanese, English and Chinese language skills and they will provide certain aids to students in needs.
(2) Facilities (libraries, sports facilities, cafeteria, IT equipment and facilities, etc.)
We can get access to libraries and study rooms, which are equipped with Apple computers. The facilities are very modern and spacious, which are very comfortable for group meetings and discussions. There are many cafeteria and small restaurants suitable for quick lunch or breakfast. Since our schedule is pretty intense, we find it effective to buy food in these cafeteria and small restaurants. Wi-Fi covers all over school and dormitory, but if you want to connect to internet while walking outside the facilities, you'd better buy a portal Wi-Fi by yourself.

Looking back over the program

(1) The significance of the program and how you have developed by taking part in it, any other impression from having studied abroad

I find some guided tours very informational. I think fieldtrip is an effective way of knowing a business, by which students can collect connection and expand their prospective on future careers. Also, talks from the companies' staff can enlighten us of what the corporations are expecting from the students which is absent from university. I really appreciate the organization of group activities and group projects which creates closer bonding and allows us to get to know each other better over a short period of time. Investigation and exploration conducted in the city in group form is the most precious experience for me in this program. I would say team work was rather successful and sometimes, we participated in activities that included more than one group of people. Overall, the past two weeks are very meaningful in communicating with other students from both universities and getting to know the Japanese community living in Hong Kong. We have gained practical knowledge and knowhow useful to carry on the well-formed HK-Japan relation.

(2) Your plans having studied abroad

1. To get to know more about history, culture and politics of the destination city through gaining real social experience and interacting with the locals. 2. To understand the formation of psychology of the locals with exploring more social factors. 3. To collect more inklings on the news industry in Hong Kong. 4. To deepen my understanding over Japan-Hong Kong relation in terms of business connection, cultural influence and administrative management.

(3) Any messages or advice for future participants

1. I highly recommend the future participants fully utilize the facilities in the dormitories and the school; 2. Figure out the location for gathering, meetings and lectures. Do not always rely on other students; 3. Get prepare physically and mentally for the humid weather. 4. It is better to finish the reading material before departure. The schedule is so packed after the program get started.. 5. Form a topic, do some research on it and communicate with your group members beforehand.

Miscellaneous

(1) Websites or publications which were useful while preparing for or during your time overseas

Embassy's website: <http://www.china-embassy.or.jp/jpn/>

(2) Please submit any photographs which may be used on the University of Tokyo websites or publications.



東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2016年 8月 15日

東京大学での所属学部・研究科等:	総合文化研究科	学年(プログラム開始時):	修士2
参加プログラム:	香港大学・東京大学合同サマープログラム	派遣先大学:	香港大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
	5. 民間企業(業界:)		6. 起業
	7. その他(独立行政法人)		

派遣先大学の概要

1911年に設置された香港の公立大学。香港島の西側にあり、中心街からはやや離れている。小さな山の山腹に立っており、大学内での高低差が激しい。ヴィクトリア・ピークという夜景で有名な香港の観光地の近く。

参加した動機

専門には全く関わらないが、香港人の友人と付き合いの中で、香港に興味を持った。香港に関する本を読んでいるうちに、イギリスの植民下で醸成された自由への希求が、返還後の中国的な政治体制の浸透と相反する状況において、多くの香港人がアイデンティティの揺らぎや不安を感じていることを知った。文化面・政治面の双方において揺れ動く香港をこの目で見て、香港人と実際に交流していくを通し、同様にアメリカによる占領期を通して、西歐的自由と民主主義という政治体制を移入していった日本を捉え直したいと感じた。それは、日本人としての自分を超えて、香港人たちと同時代を生きるアジア人としての自分を再発見しようとする試みでもあった。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

英文成績証明書は二、三日かかるので早めに申請するべき。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

必要ないので特にしなかった。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特にしなかった。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

付帯海学

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

超短期なので特にしなかった。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
喋れれば得るものは多くなるが、日本学科の学生との共同なので、あまり英語が得意でなくても楽しめると思う。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
BF変換プラグ。英会話の練習。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
①起業家、大企業の役員以上レベルの人から話を聞くこと②香港における日本食という大テーマに関わった発表をすること、以上二点が内容。リーディングリストは事前に指定されるがほぼ誰も読んでいなかった。香港にあまり関心の無い人もいるが、私は関心があったため、香港の歴史や香港文化の現状と今後などに関する話が大変面白かった。
②学習・研究面でのアドバイス
特にないが、現地学生との交流の機会が多くあるので、香港や香港人に興味を持っていれば、会話は大変盛り多いものになる。
③語学面での苦労・アドバイス等
香港人は相当に英語ができるので、差は感じるだろうが、ネイティブほどではないので、いい意味で、「頑張っ て追いつこう」という気分になれる。また、香港人の中には英語ができない人も案外いるため、香港大の学生は 下手くそな英語に慣れている。間違ってもいいから何か言おうというスタンスでいけば、大変な苦労は感じない はず。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
大学の寮。すでに用意されている。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
蒸し暑い。周辺は坂道・山・駅と駅前商店街。山腹ではあるが、店は大量にある。食事は美味しい。値段としては日本より若干安い、といった形。お金は引き出しにいられた。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
特に問題はなかった。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
一緒に行動し、一緒に外食が多いため、食費その他生活に関わるお金が1日に2000-3000円くらい。
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
Jasso。プログラムに付帯している。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
特になし。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
わからない。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
全てそろっている。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
プログラムの意義は、何よりも現地の学生との交流と、香港という街を歩く体験に求められると私には思われた。特に本プログラムにおいては、現地の学生と同じ寮の同じ階(男女は別だが)に住むことができる。また、グループワークを通じたプレゼンテーションをするという大目標が最後に設定されているため、プログラム時間外、寮に帰ってからも議論をしなければならない。そのため、文字通り朝から晩まで現地の学生と寝食をともにすることになる。このように密接に交流することができることは本プログラムの最大の長所と思われる。グループの仲間とは確実に仲良くなれる。
②参加後の予定
修士論文執筆・就職。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
香港や香港人に興味がなくとも楽しめるだろうが、その場合、退屈する可能性がある。香港や香港人に興味があり、どうしても行ってみたい、話してみたい、と思うのなら、これ以上のプログラムはなかなかないだろう。プログラムの中心はビジネスと食文化であり、専門の違う学生には抵抗があるだろうが、これらを通して香港がよく見えるのは事実であるから、香港を体験したければ迷わず応募してほしい。
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
『香港：中国と向き合う自由都市』(岩波新書、2015年)『誰も知らない香港現代思想』(株式会社共和国、2015年)。読んでおくと香港への興味が高まる上に理解が深まる。
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。
特にありません。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2016 年 8月 16日

東京大学での所属学部・研究科等:	法学政治学研究科	学年(プログラム開始時):	専門職2
参加プログラム:	HKUサマープログラム	派遣先大学:	香港大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
	5. 民間企業(業界:)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
	7. その他()	<input type="checkbox"/>	

派遣先大学の概要
香港大学
参加した動機
海外留学に興味があったが、司法試験等の関係で機会を設けられませんでした。今回、時間が取れるタイミングで本プログラムの募集があったため参加を希望しました。
参加の準備
①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
パスポートはもちろん、保険の手続きが期日を要するので採用が決まり次第、早めに手続きを開始することを勧めます。
②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
ビザは不要でした。
③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)
特に準備はしませんでした。アレルギーの薬は長めに処方してもらいました。
④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
学校が義務として求めたもの以外には加入していません。
⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
一応単位認定可能なプログラムでしたが、採用発表の時点で登録が追いつかない不備があるため単位はあきらめるか、事前に相談する必要がありそうです。私は単位はいらなかったので問題になりませんでした。試験については個別に口頭試問を課す先生の日程とかぶりでしたがペーパーの試験ではなかったのですらしてもらいました。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
大学三年生の夏に受けたTOEIC700のスコア以来、特に何も受けていないのでその程度の英語力しかなかったと思われます。海外ドラマを見るのが趣味でしたので会話で困ることはあまりなかったですが、きちんとした文章を組み立てて主張を展開する能力などは極端に低かったです。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
HKUの学生は英語力が高いので、相手にストレスを与えないためにはしっかり準備したほうがいいです。英語も日本語も解するメンバーに恵まれないと、複雑な議論になったときにストレスばかりかかります。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
12日間のうち一週間以上はレクチャーを聞く形式でした。事前に配布される資料をきちんと読み込んで、仮説を立てておくのと実りあるものになりやすいです。豪華なスピーカーが多いので準備して損はないと思いました。英語が苦手なら事前に質問を英語で作ると発言しやすいですし、おすすめです。
②学習・研究面でのアドバイス
短いプログラムですから事前の準備ができていればいるほど、収穫できるものが多いです。ただぼーっと聞いているだけだともったいないですから、しっかり準備することを強くすすめます。
③語学面での苦勞・アドバイス等
やはり、スピーキングの練習をしていないといたいことがきちんと言えないので、意識してトレーニングしておくといいと感じました。
生活について
①宿泊先(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
清潔な寮だったのでストレスなく泊まりました。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
湿度がすごいです覚悟していくことしかできません。大学の周りは結構お店あるので現地の学生に連れて行ってもらいたいと思います。MTRという地下鉄が発達しているので活用しましょう。タクシーは安いですが英語が十分に伝わらないこともあるので、緊張します。お金はクレカがかなり使えるので、それほど現金を大量に持つていく必要はないと感じました。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
きちんと食べて、無理をしないことです。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
飛行機はLCCで往復5万円程度、食費娯楽交通費などで1から2万円程度でしょうか。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
プログラムに就いていました。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
一日休みの日があり、ディズニーランドにいきました。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
自習スペースや図書館は利用可能でした。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
上記の通りです。食事をとるところやカフェは多く、スタバも学割料金でやっています。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
当初は英語がどれくらい通用するものか、香港のビジネスの場としての魅力は何かということを知るために参加しました。実際に参加して、英語力については単純な会話においては発音や表現に問題はないが、複雑な議論を組み立てるには訓練が足りないことがわかり、語学学習意欲が高まりました。HKUの学生がトリリンガルなのも強く刺激を受けました。ビジネスについてはスピーカーの話がとても勉強になりました。
②参加後の予定
語学を頑張ります。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
英語力に不安があっても、英語を使って得られる情報が少なくても、いろいろな刺激を受けられるプログラムです。飛び込んでみるといいと思います。
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
特になし
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2016年 8月 23日

東京大学での所属学部・研究科等:	法学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	香港大―東大 夏期プログラム	派遣先大学:	香港大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input checked="" type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input checked="" type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input checked="" type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要
香港島にある、香港トップクラスの大学・100周年記念校舎という新しくきれいな校舎で講義等をうけた
参加した動機
東大とは違う環境に身を置き、また日本を海外から見つめることで、自分がこれからどのように生きていくかを考えるヒントになればよいと思った
参加の準備
①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
試験が終わってからすぐの出発になるので、書類提出などできることは、はやめはやめに準備しておくで慌たたくなくてよいかもしれない。
②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
特になし
③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)
特になし
④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
大学で入るように言われた保険に加入した
⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
履修登録をして、学部の教務課に指示された通り、学部の教授会に提出する資料を作成・提出した

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
期末試験後、すぐの出発だったので、特に準備などはできなかった・念のため、電子辞書は持っていった
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
名刺を用意しておくともよいかもしいない
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
香港における日本というテーマで、在香港大使や、ビジネスリーダー、研究者の話を聞いたり、工場や施設を見学したりすることに加えて、あらかじめ分けられたグループごとに、各自のテーマを設定して、リサーチなどを行い、最後に英語でプレゼンテーションをする、というプログラムであった。
②学習・研究面でのアドバイス
特筆すべきことはないが、現地の学生とよくコミュニケーションをとった方がよい
③語学面での苦勞・アドバイス等
特になし、ただし、意外になまりが強い英語を話すひとが多いので、聞き取りづらいかもしいないが、これは、どうしようもないことだろう
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
プログラムで用意して下さった寮に宿泊
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
外は蒸し暑くて、正直不快である。大学周辺は、飲食店が多い。交通機関は、地下鉄はトラムがあり便利。食事は、不潔ではなく、まあまあ。食事場所については現地の学生に任せればよい。寮は、結構きつい坂のうえで、駅からは徒歩5分くらい。坂のふもとにスーパーがある。現金とクレジットカードを用いた
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
特になし
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
飲食費・交通費・娯楽費あわせて5万円程度・あとは航空券代
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
なし

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

現地の学生に、島に連れて行ってもらったり、繁華街を案内してもらったりした。カラオケにも行った

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

引率の園田先生が、とてもよい方だったので、万全なサポート体制であるといえる

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

食堂はたくさんあるし、安い。無料の無線LANが、大学・寮にある。図書館も使わせてもらった

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

英語をもっと流暢に話せるようになりたい・自分の専門、強みをつくりたいと感じた・香港では、日本に友好的なムードがあり、過ごしやすかった

②参加後の予定

現地の学生と再会する計画を立てている

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

参加して損はないと思う。引率の園田先生も、香港大の中野先生もとてもすばらしい方なので。参加するすばらしい学生との出会いもある。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

滞在する寮のホームページは参考になった。洗濯ができることなどがわかる

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2016年 9月 2日

東京大学での所属学部・研究科等:	工学系研究科	学年(プログラム開始時):	修士1
参加プログラム:	香港大学・東京大学合同サマープログラム	派遣先大学:	香港大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界: 重工業,自動車メーカー)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

香港大学は香港が1961年に設立された香港で最も歴史のある大学であり、英語、広東語を主に使用した授業が行われている。様々な学生の寮があり、香港以外の中国大陸、台湾出身の学生も在籍している。国際性が高く、教育、研究が主に英語で行われ、英語の論文が多数執筆されており、世界での大学ランキングもアジアで上位に位置している。

参加した動機

海外でのサマースクールがあるという話を以前知人より聞いていたのがそもそものきっかけでした。大学合同のサマープログラムは、香港大学、北京大学、ソウル大学、シェフィールド大学などが行われており、短期間でありながら海外で学習することのできる良い機会だと感じました。今まで海外での生活や学習経験がなかったため、社会に出るまでに一度は海外で講義や、実習といった活動してみたいと思い、このプログラムのエントリーするに至りました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

プログラムの手続きには、多数の書類が必要なため、早めの準備を心がけたほうが良いです。TOEFLなどの英語の資格はあらかじめ取得しておく必要があります。また、工学部などは全体とは別に提出書類の締め切りが存在するので、事務にしっかりと話を聞きに行き、確認したほうが良いです。(自分は手違いによりほかの留学プログラムの期限と勘違いしており、提出し損ないそうになりました。)志望動機などのエッセイはしっかりとチェックされるので、しっかりと書きましょう。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

日本人であればこのプログラムの期間ではビザは不要でした。外国籍の人は何かしら必要であったように思います。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

香港の衛生環境は日本とさほど変わらず、高い水準にあると思います。特に気を付けるべきことはありません。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

留学プログラムに共通の事項ですが、付帯海学とOOSMAという保険に加入する必要があります。手続きが1か月前程度に行わなければならないので、大学の本部よりアナウンスがあったらすぐに行うことを進めます。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

参加にあたっては所属の研究科において誰かからのサインをもらう必要があります。また、学会などを控えている場合は日程が被らないように気を付けると良いかと思います。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

このプログラムでは日本語、英語が主な意思疎通手段になります。英語力に関してですが、ディスカッションやレクチャーにおいて他人の考えを正しく理解し、コミュニケーションをとる必要があるため、それなりの英語力が必要かと思われます。TOEFLなどの勉強や、英会話のトレーニングをしているとより有意義にプログラムを過ごせるのではないのでしょうか。ただ、前述するように日本語でもある程度は通じるので、そこまで心配しなくても大丈夫です。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

短期間ですが寮生活となったので、洗濯道具などを持っていくと便利です。ただ、近くに地元のコンビニもあるので、そこである程度調達することも可能です。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

“Japan in Hong Kong”がテーマとなっており、香港に住む日本企業を訪問したり、香港人のとらえる日本文化について深く学ぶ内容となっています。香港大学の学生と東京大学の学生が複数のグループに分けられて、授業やフィールドワーク、見学をこなし、最終的にはグループの設定したテーマでプレゼンを行うといったものです。香港大学での講義では、香港大学の社会学系の先生方より、日本文化の認識についての講義などが行われました。日本企業への訪問ではヤクルトやシティスーパー、JALといったところに行きました。香港空港の貨物倉庫などの見学が印象に残っています。ほかにも香港のビジネスにおける大物が講演を行う機会があり、貴重な体験ができます。香港というフィールドでビジネスをする日本人々から直接話をでき非常に刺激を受けました。このプログラムでは、香港大学の学生と東京大学の学生が同じ寮に泊まり込むため、講義やフィールドトリップで忙しいプログラム中も活発なディスカッションや、交流を行うことが出来ました。

②学習・研究面でのアドバイス

ホームワークなどの日々の課題は特にありませんが、最終的にグループで発表を行います。グループ発表の内容は学生から主体的見つけ出すことが必要です。調べるテーマによっては企業見学などの、フィールドワークを企画していかなければならないので、香港のいろいろな分野のビジネスマンと連絡をとれるようにしておくといいです。香港における日本の食文化がフィールドワークのテーマであったので、それに合わせて自分のグループでは現地調査を行いました。英語での発表となるため、プレゼンの発表資料をしっかりと作り、発表練習を入念にすると完成度が上がり良いものとなると思います。

③語学面での苦勞・アドバイス等

前述したとおり、日本語、英語の双方をコミュニケーションツールとして用いることができるので、英語が不完全でも全く通じないということはないです。また香港大学の学生も日本語が堪能な者が多いです。ただ、ディスカッションにおいては日本語で話を進めると東京大学の学生しか理解できずに話が進んでしまう場合があったため、できる限り英語でのディスカッションを滞りなく行うことが必要です。日本文化のとらえ方に関して、微妙な英語のニュアンスを伝えることが望ましいでしょう。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

本プログラムでは香港大学のShun Hing College(学生寮)が無償で提供されたため、宿を探す必要はありませんでした。寮は山の上にあります。地下鉄駅の近くにあるので、大学や香港の繁華街に近くアクセスも便利です。東大生は一人部屋が提供されましたが、香港大の学生は二人寮だったので、場合によっては二人の寮になる可能性もあるかと思ひます。宿舎は新しい建物で綺麗で、洗濯機なども使うことが出来ます。門限も特にありませんでした。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

香港の気候は高温多湿です。ただ日本以上に冷房が効いている地域なので、上着を常に携帯したほうが良いでしょう。交通機関は主にMTR(地下鉄)であり、他にもバスやタクシーなども使うことが出来ます。食事は中国料理を中心に、世界各国の料理が食べられ、日式料理と呼ばれる日本料理店も多いです。お金は空港で香港ドルに替えました。両替所は都心に多数あるので適宜必要に応じて日本円を替えることが出来ます。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

生活圏内の治安は良好だったので、深夜も香港大学の学生と出歩くこともできました。長期プログラムではないので、そこまで気に病むこともないかと思います。何か不安に思うことがあったら提携先の香港大学生に相談すればよいかと思います。サポートはしっかりしています。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空費が5~7万程度です。LCCかフルサービスキャリアを使うかによって変わってきます。授業料、教科書料、家賃などは不要です。食費は一食600~程度かかり、日本と相場はあまり変わりません。交通費や食費がメインの出費になるかと思いますが、もろもろの生活費で3~4万かかったかと思います。娯楽にお金を使えばその分お金はかかるといった感じです。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSOの奨学金付きで行われているプログラムなので、他のプログラムで受け取っていなければ、もらうことが出来ます。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

プログラムの予定が密に入っているのであまり自由時間はありませんでしたが、休日は地元の人が良く行く海水浴のできる島にも行きました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

TAの学生や、顧問の先生が東大、香港大学より一人ずついらっしゃるのでは何か不測の事態があったら相談することが出来ます。また、最終発表に向けたプレゼンに関する相談も何回か行いました。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

大学の図書館には自習スペースがあり、香港大学の学生についていけば使うことが出来ます。大学には食堂のほか、多数の飲食店があるので、そこをよく利用しました。PCカフェと呼ばれる共用スペースはありますが、自分のPCを持って行ったほうが良いでしょう。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

このプログラムの責任者の先生の尽力により、様々な体験ができたと思います。特に海外というフィールドで活躍する日本人の方々には非常に刺激を受けました。香港は税金が非常に安く、無関税のため物流にも適しており、アジアにおける重要なビジネスの拠点だと話しており、日本よりもはるかに自由にビジネスができることを感じました。起業をし、海外に拠点を置いて活動する人々とお話したことがあまりなかったことがなかったため、非常に面白かったです。また、香港大学の学生との交流により文化的な驚きが多かったです。食文化や、余暇の使い方が日本人と少し異なるように感じました。また、香港大学の学生のほうがよりリベラルな発想を持っているように思います。プログラムを通しては、英語力不足を痛烈に感じました。今後海外で活躍するためには、より高いコミュニケーションスキルが必要であると思います。2週間という短い期間ではありましたが、そのような色々な自分にプラスとなる経験ができたと思います。

②参加後の予定

大学院で研究を進めます。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

色々な学部から様々な学生が参加しており、多様なバックグラウンドを持った人々との交流で、非常に面白かったです。ある程度の語学力と、エッセイがかけられていればプログラムにアサインされるそうなので、興味のある方はぜひ参加することをお勧めします。短い期間ですが香港大学の学生と非常に充実した時間を過ごすことができます。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

「香港を知るための60章」は一般的な知識を得るのに役立ちます。また、プログラムにアサインされた後に先生からリーディングリストが送られてくるので、適宜目を通しておくと理解が深まります。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書（超短期プログラム用）

2016年9月5日

東京大学での所属学部・研究科等：	理学部	学年（プログラム開始時）：	学部3
参加プログラム：	UT-HKU Joint Program	派遣先大学：	香港大学
卒業・修了後の就職（希望）先：			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職（医師・法曹・会計士等）
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input type="checkbox"/>	5. 民間企業（業界： ）	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他（ ）		

派遣先大学の概要

香港大学は東京大学と並び、アジアのトップにある大学です。歴史や文化的な原因もあり、社会科学を含む文系科目において高い水準を持っています。個人的には、これらの分野に関して、東京大学よりもいい勉強の場所なのかもしれません。なお、自然科学において若干弱いかも？

参加した動機

香港という多様性を孕む地域に対して興味を持ち、このプログラムに参加しました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き（手続きにあたってのアドバイスなど）

特にありません。

②ビザの手続き（ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど）

日本の学生に関しては、ビザなどの手続きは必要がありません。中国大陸のパスポートを持っている学生は中国大使館で簡単な手続きを行うことによって、一週間程度でビザが手に入ります。

③医療関係の準備（出発前の健康診断、常備薬、予防接種等）

特にありません。

④保険関係の準備（加入した海外旅行傷害保険・留学保険等）

学校指定の海外保険に加入しました。それくらいです。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科（教育部）で行った手続きなど（履修・単位・試験・論文提出等に関して）

私の場合は、こちらのプログラムは学科の単位にはなりえませんが、特に手続きを行いませんでした。

⑥語学関係の準備（出発前の語学レベル・語学学習等）

中上級の英語ができれば大丈夫だと思います。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

特にないと思います。気になるなら常備薬を持って行った方が良くと思います。

学習・研究について
①プログラムの概要（授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等）
今回のプログラムは、香港の各界で活躍している方々から、講義を、あるいは、単にお話と言ってもいいと思うが、伺うと同時に、いくつか最初から振り分けられていたグループを元に、香港における日本食品を大きなテーマとしての調査研究をするという形になっている。講義自体は全体を通して一つのみまとまっているが、前後のつながりはそれほど強いわけではありませんので。決まった予習復習スタイルで勉強を進めるというよりも、自分に役立ちそうなものを振り返って咀嚼するぐらいで大丈夫だと思います。
②学習・研究面でのアドバイス
前項の①にまとめて書きました。
③語学面での苦労・アドバイス等
英語ができれば特に不便がありませんので、特に心配がいらなと思います。
生活について
①宿泊先（種類（寮・ホームステイ・ルームシェア等）、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など）
今回のプログラムは、香港大学の宿舎であるShun Hing Colledgeを使わせていただきましたので、自分で苦労して宿泊先を探すことはありませんでした。
②生活環境（気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法（海外送金・クレジットカード）など）
日本に比べて、夏の香港はさらに湿度が高いです。公共交通機関はとても発達していますので、だいたいの行き先は地下鉄を使って辿りつけることができます。香港は案外クレジットカードが通じない社会なので、事前に十分な香港ドルを両替して、持って行った方がいいでしょう。
③危機管理関係（留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など）
香港の治安は日本並みに良いので、必要以上の心配はする必要がないですが、かといって、やはり自分にとっては海外だということで、用心は必要です。
④要した費用について（航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算）
このプログラムは実質自分で払うのは航空賃と食費ぐらいですが、東京から往復の航空賃はだいたい4万円です。また香港にはいろんな階級の食べ物屋さんがあって、食費は生活習慣によってかなりバラつくと思いますが、基本的に東京と同じぐらいと考えて良いかと思います。
⑤奨学金（受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など）
このプログラムはJASSOあるいは本学から7万円の支給がもらえます。
⑥学習・研究以外の活動（スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など）
かなり詰めた日程となっていましたので、課外活動はありませんでした。

派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制（語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等）
特にありませんでした。
②大学の設備（図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等）
このプログラムの学生としては、学校の図書館のみを使用することができました。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
<p>講義に関しては、よく理解できて、興味深いと感じるものもあって、自分にとっては難解であり面白さがわからなかったものもあったが、講義自体一般的なもので、ここで私がかきとめる必要もないと思う。それにたいして、グループの調査研究のテーマはそれぞれ違って、人々の感触も違うと思うので、それについて数筆記すことにしようと思う。</p> <p>私の所属するグループは、香港大学から3人、東京大学から3人の、計6人からなるグループである。アカデミックな背景から言うと、東京大学の学生はそれぞれ法学、近現代日本文学、物理を専攻していて、香港大学の中の2人は、日本研究を専門としていて、1人は土木を専攻している。文化的な背景を言うと、2人は日本出身、3人は香港出身、1人(私)は中国大陸出身である。こう言う多様性に富むグループの中で、調査研究は展開されたのである。</p> <p>そこで、私たちのテーマは、ざっくり言うと「香港における日本しょうゆの本土化」である。香港では、日本の食料や、料理、そして調味料まで大量に消費されている、という背景はあるが、日本のしょうゆは先入観的に日本食にしか使われないのだが、実はそうではなく、香港では、場合によって、本土料理にも使われるのである。私たちは、この、本土料理に日本のしょうゆを使うケースに注目して、日本のしょうゆの長所や特徴を分析し、日本しょうゆが香港市場でさらなる進展を遂げるための考えられる策を提示した。</p> <p>こういうグループワークの中で、学術的な勉強ができただけでなく、違う人々と協力して仕事をする仕方や、また香港そのものの内部に孕む多様性に関してもまた新しい眼差しを得た。以上から、このプログラムは私にとってとても役に立ったのである。</p>
②参加後の予定
普通に東京大学に戻って勉強を続けますが…
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
このプログラムは、参加者に対してあんまり要求を設けていなくて、その結果、あまり入り込んだ勉強はできませんが、その代わりに、自分の知らない世界に対しての新しいヴィジョンを獲得するのに非常にいいプログラムです。頑張ってください。
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
特にありません。
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。
特にありません。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2016年9月2日

東京大学での所属学部・研究科等:	経済学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	香港大学・東京大学合同サマープログラム	派遣先大学:	HKU
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
	✓ 5. 民間企業(業界: 金融)		6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要

香港大学

寮はShun Hing collegeで、香港大学駅から一駅。オートロックの個室で快適でした。

参加した動機

サマープログラムへの参加を希望した理由は2つあります。1つは、「世界の中での日本」という視点を得られること、もう1つは「楽しかった」だけでは終わらないプログラムであるということです。

前者について、私は生まれも育ちも日本で、短期の旅行を除いては海外経験がありません。日本が世界の中でどのような立ち位置にあって、今後の日本がどのように戦っていくのか俯瞰的に考えたいです。特に、第一希望とした香港プログラムの場合、「香港にある日本企業」とのセッションがあることを魅力に感じました。日本は、マクロ的に見て人口が減少し、国内マーケットだけでは縮小していくことが避けられません。日本企業が、ホームグラウンドではない海外市場でどう戦っているのか、その難しさややりがいを知りたいと考えています。春からは、外資系企業の東京オフィスに就職することが決まっているため、逆の立場の日本企業の海外ブランチの仕事に興味があるのも理由の一つです。

後者の点について、海外プログラムや短期の留学の場合、楽しいだけの海外旅行で終わってしまい、大きな学びが得られなかったという声を聞くことがあります。このプログラムの場合、事前課題やキックオフミーティングにはじまり、現地大学の教授の授業やグループでの最終プレゼンなど、インプットとアウトプットの機会のバランスもよく、能動的に学びを得られるチャンスが多いと感じました。また、香港プログラムの場合、HKUの寮で生活することで、現地学生との交流もでき、旅行者ではなく、より現地人に近い視点で香港を理解できると考えました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

単位取得を目指す場合、経済学部の場合はプログラム発表から申請まで数日しかない(現実的には数日ですべてのアプリケーションを揃えるのは不可能に近く、単位はあきらめるしかない)

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

なし

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

なし

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

学校斡旋の保険に加入。
自分でネットで探すと半額程度で同程度の保障プランが見つかるが、大学に斡旋される以上仕方がない。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
単位取得は間に合わなかったため、聴講になる旨伝えられた。
⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
TOEIC935点
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
事前課題が多いので計画的に読んでおくと良い。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
様々な起業家、政治家の話を聞く。皆さまわかりやすい英語で話してくださった。あまり質問が出ないことも多いが、積極的に質問すると良い。
②学習・研究面でのアドバイス
香港大学の大学生はみな日本語が堪能で驚いた。 事前課題を読んでおくと講義の理解は深まるが、全てを読むのは分量的にも内容的にも厳しかった。
③語学面での苦勞・アドバイス等
ディスカッションも日本語で行われるくらいなので、あまり気にしなくても良い。ただし、最終日のプレゼンは英語。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
寮で生活。オートロック・個室で快適。 しかし、自身を含めてオートロックに締め出される人続出であった。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
香港自体の治安は良い。 交通も自由行動以外はバスが手配されていて快適であった。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
特に心配は必要ない。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
現地で使ったお金は2万円ほど。航空運賃が6万円ほど。その後ホテルに宿泊して後泊したのでその分のお金が+1万円くらい。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
JASSO
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
現地の大学生と飲みに行ったり、食べ歩いたり。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
大学自体のサポートはほとんどなかったが、学生のTAIにお世話していただいた。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
東大よりきれい。香港大学の厚意で図書館のアクセスをもらえた。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
<p>今回の香港大サマープログラムで感じた点は、ミクロに見ればその思い出にきりはないのですが、全体を通して考えた点が大きく2つあります。まず一つは香港の学生の優秀さ(とりわけ語学力)、そしてもうひとつはこのプログラムに賛同して協力してくださる方がいかに多いかです。</p> <p>前者の点について、香港大の学生は、出身に限らず北京語・広東語・英語はネイティブレベル、それに今回参加した学生は日本語も堪能で、さらに「フランス語もやってます」「韓国語も喋れる」など、とにかく語学力面での差を感じました。</p> <p>我々日本の大学生に関していえば、自戒も込めてですが、まがりなりにも日本トップの大学とされる東京大学の学生が2ヵ国語目の英語に難儀している状況であり、この状況の差は非常に大きいと感じました。</p> <p>プログラム中に何となく調べたのですが、大学ランキングで東大が昨年香港大に抜かれたとのこと。やはり国際化などの低いスコアが響いたようです。この状況を目の当たりにしてみると、それにも納得でした。</p> <p>私自身は、「言語は手段でしかなく、コミュニケーションは気持ちの問題だ」という考え方をしていたのですが、やはり言語がわからないとコミュニケーションに入れないのはもちろんのこと、気分も盛り下がってしまいます。英語力は今後も継続して強化を図るつもりです。</p> <p>後者の点について、園田先生・中野先生をはじめ、非常に多くの方がこのプログラムに協力していただきました。香港のお偉いさんも喜んで質問に答えてくださいましたし、取材の協力を申し出たらどなたも快く対応していただきました。カレッジのみなさまにも大変お世話になりました。</p> <p>これは将来のアジアを背負っていくべき我々への期待であり、コミットメントであると考えています。お世話になった方たちの期待に沿えるよう、グローバルに活躍できる人材になるべく今後精いっぱい頑張っていきたいです。まずは、来年から就職する証券会社で活躍し、将来的には香港のランチに来れたらいいな、と考えています。</p>
②参加後の予定
なし
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
<p>語学力はそこまで必要とは思えず、かつ個人では会えない人に会えるので、参加をお勧めする。一方、語学を伸ばしたいという目的であれば別のプログラムの方が良いかもしれない。</p>

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

なし

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2016年8月26日

東京大学での所属学部・研究科等:	経済学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	香港大学・東京大学合同サマープログラム	派遣先大学:	香港大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:コンサルティング)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

香港においてトップの大学。様々な大学ランキングにおいて東大と肩を並べることが多い。プログラムに参加する学生の大半はJapanese Studiesを専攻している学生。

参加した動機

かつて香港に在住していたことがあり、その頃と比べて香港がどのように変わったのかをこの目で確かめたいと思ったため。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

特に大きな負担はありませんでした。申込書類はしっかり期日までに揃えましょう。(私は英文の成績証明書の発行にかかる時間を甘く見ており、事務の方にご迷惑をおかけしてしまいました)

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

特になし

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特になし

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

国際本部から薦められた保険に加入しました。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

短期のプログラムですが、ゼミや研究室に所属している場合は指導教官のサインが必須です。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
特に準備はしませんでした
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
シャンプーやリンス、洗剤などの持参は必須です。(グループの仲間と共用するのも手だと思います)
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
香港で活躍されているビジネスリーダーの方を中心に、様々な方のお話をお聞きするのが前半8割。残り2割は、グループごとに決めた題材に関するリサーチで、最終日にプレゼンテーション。実際には毎日夜は空いているので、数日おきに夜ミーティングを行うグループが多かったように感じます。
②学習・研究面でのアドバイス
特に事前知識が問われるような発表ではないので心配不要です。いかに聴衆の心を動かすプレゼンテーションができるか、という視点を持ち続けることが大切だと思います。
③語学面での苦勞・アドバイス等
香港大の学生は英語を話す速度がものすごく速いです。分からない場合は、恥を捨てて素直に「もう一度お願い」と言いましょう。こちらのレベルに合わせてゆっくり話してくれるはずです。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
香港大学の寮に泊まります。部屋は狭いですが、建物自体は新しく快適でした。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
曇りや雨の日が多かったこともあり、思っていたよりも暑くはありませんでした。駅から寮までの道沿いにスーパーがあり、必要なものは一通り揃います。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安は良い方だと思います。しかし、香港の人はあまり現金を持ち歩かないという話を聞いていたこともあり、財布の中のお金は500ドル程度にとどめていました。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
食費や交通費を含めて、日本円で20000～30000円程度。航空券は往復6万程度で、奨学金で賄えます。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
プログラムに付随しているJASSOの奨学金をいただきました
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
1日フリーの日があり、グループの香港大学の子が離島に連れて行ってくれました。毎日の食事も現地の学生がよく行くお店を選んでくれるので、観光では味わえないような現地の生活を体験することができます。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
プログラムに同伴してくださる先生には話しかけやすい雰囲気があります。TAさんも親切で、総じて過ごしやすいです。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
図書館やグループ学習施設に入場可能で、香港大の学生の学習スタイルを体験できます。大学構内での企画の日には、香港大生が学食に連れて行ってくれます。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
まず、東大と香港大の素晴らしい学生と知り合えたこと自体が大きな価値であるように感じます。プログラム終了後もずっと付き合っていきたい、そんな友人が数多くできました。それに加え、各界のリーダーの話聞いて自分の将来への糧としたり、香港大の学生とのワークの中で至らなさを痛感したり、寮のラウンジでのさりげない雑談に刺激を受けたり。毎日学びがあるプログラムです。
②参加後の予定
英語力をより磨こうと思いました。香港大の学生並みに話せるようになりたい、と強く思うようになりました。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
少しでも興味があるのなら、応募書類を提出してみましょう。素敵な2週間が、あなたを待っています。
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2016年9月6日

東京大学での所属学部・研究科等:	工学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	夏季短期留学プログラム HKU	派遣先大学:	香港大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
	<input checked="" type="checkbox"/> 5. 民間企業(業界:IT業界)		6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要

参加した動機

私は親が中国出身であり、自身も中国に行く機会が多いです。以前から、アジア各国の人々の価値観の違いに触れる機会も多く、現存する国際問題の緩和に向けて何かできないかと考えておりました。今回のプログラムでは、香港大学の学生と同じ寮に住み込み、自分たちでのフィールドワークもあるということで、香港の人のあり方を深く体感する機会になると思い応募しました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

特になし

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

私は中国国籍でしたので、中国大使館に行き香港入境許可証を獲得しました。中国国籍の場合、滞在期間が7日間以内でしたら許可証取得の必要はなく、8日以上14日以内でしたら許可証取得、15日以上でしたらビザの取得が必要になります(2016年8月時点)。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

酔い止め薬と整腸剤を持っていきましたが、どちらも使いませんでした。香港の場合、道路の整備状況は、郊外になるとあまり良くなく、車が揺れるので、酔い止めはあるといいかもしれません。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東京大学が義務づけているもののみ加入しました。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

一度短期留学の許可をいただくために事務の方にサインをいただきました。私は単位申請をしませんので、他には手続きはありませんでした。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
申請に必要でしたのでTOEFLを受験しました。香港大学の方々は日本語が上手なので、ディスカッションでは、英語力はある程度で問題ないですが、講演や、質問は英語を使うことが多いので、香港のビジネスについて深く理解したい場合、英語を学習しておいた方がいいかと思います。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
生活面については、寮での生活ですので、タオル、シャンプー、ハンガーやゴミ袋など、持っていった方がよいです。また、香港についてある程度予備知識があるといいかと思います。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
約2週間のプログラムです。はじめの10日間は、香港で活躍する日本人・香港人から、香港のいろんな分野のビジネスについて講演があります。今年のテーマは食であったため、香港に進出する日本食チェーン店からのお話など聞く機会がありました。その後3日間ほど班ごとのフィールドワークの期間があります。最終プレゼンに向けて自分たちでインタビューなどを行います。香港大学の寮に香港大学の学生と一緒に住むので、基本的に話し合いは大学の自習室や寮で行いました。
②学習・研究面でのアドバイス
短期でしたので、特にありません
③語学面での苦労・アドバイス等
特になし
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舍の様子、見つけた方法など)
プログラムで用意していただいた寮
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
香港は外はかなり暑いですが、室内は逆に非常に寒いので防寒着が必須です。交通や食事はそれほど苦労しません。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
特になし
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空費は往復5万円ほどでした。
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
受給していませんでした。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

特になし

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

かなり参加学生同士が密接にかかわることになるので、学生同士で助け合う形が多いです。香港での交通やレストランは香港の学生が詳しいので、まったく困ることはありませんでした。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

寮の設備、自習室

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

香港大学学生とのディスカッションを通して、良いチームワークを築くために自分にできることは何か、リーダーシップとは何かを考える機会となりました。また、講演では日本企業が海外進出するためにはどうしたらよいのかであったり、ビジネス界で活躍されている方々のポリシーをこの身で感じ、自分が何を大切にすべきか考えさせられました。

②参加後の予定

引き続き東京大学で勉強します。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

寮に住みこんで本気で向き合う機会があるので、他国の学生と交流したいと考えている人に良いプログラムだと思います。特に大学1年生や2年生に薦めたいです。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

特になし

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2016年9月15日

東京大学での所属学部・研究科等:	経済学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	HKU-Utokyo Joint summer program	派遣先大学:	Hong Kong University
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要
香港で最も有名な国立大学
参加した動機
将来的にアジアで働きたかったため、イメージを深めるために参加を希望した。
参加の準備
①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
特に変わったことはない
②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
ビザ手続き必要なし
③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)
特になし
④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
東京大学指定の保険とOSSMAに加入した。
⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
特になし。ただし、夏学期に登録すれば、単位がもらえた模様
⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
特になし。現地生徒は日本語も上手い

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

特になし

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

毎日様々な分野のトップの方のお話を伺ったり、工場見学などを行った。またチームで一つテーマを設定し、それを自主的に調べ、最終日に発表した。

②学習・研究面でのアドバイス

テーマは早く決定した方がよい。また講演者の方の情報を事前に得ておいた方が有意義な時間を過ごせる。

③語学面での苦勞・アドバイス等

現地の英語のクセに多少苦勞した。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

先方が寮を提供してくださった。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

大きな問題はなかった。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

特になし。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

娯楽費・食費:2.5万円程度。航空券はJASSOからの給付金でカバーできた。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSOから奨学金を頂いた。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

自由時間は頻繁にあったため、外食を頻繁にしていた。午前2時からの飲茶は印象的。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

園田先生、中野先生にはあらゆる面でサポートいただいた。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

東大生OBや講演者の方と話す中で、当初の目的であったアジアで働くイメージがさらに膨らんだ。

②参加後の予定

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

有意義なので、ぜひとも申し込んだ方がよい

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。